

教授・学習ポートフォリオ構築の試み

波多野 和彦*・中村 佐里**・城一 道子*・宮崎 孝治*

要 約

教職大学院等を擁していない小規模な大学における教職課程で、既存の設備を活用することにより、電子的な「教授・学習ポートフォリオ」を構築するために最低限必要となる（複数教員とひとりの学生との間での情報の蓄積と共有）機能を実現した。その事例を紹介する。

キーワード：ポートフォリオ，教職実践演習，小規模，私立大学，moodle

1. はじめに

平成15年5月15日の遠山敦子文部科学大臣による「今後の初等中等教育改革の推進方策について」、平成16年3月4日の河村建夫大臣による「地方分権時代における教育委員会の在り方について」、平成16年10月20日の中山成彬大臣による「今後の教員養成・免許制度の在り方について」という3つの諮問を受けた中央教育審議会は、義務教育の在り方についての審議を進め、平成17年10月26日「新しい時代の義務教育を創造する」という答申を示した。

この答申に基づいて、学校教員にかかわる資質向上のための方策が具体的に検討され、平成19年6月の改正教育職員免許法の成立により、平成21年4月1日から「教員免許更新制」が導入された。また、教職大学院等の充実もはかられている。

このような状況下で、大学学部レベルの教員養成についても見直しをはかれ、そのひとつとして、「教員としての資質能力の最終的な形成と確認」を目的に、教育職員免許法施行規則（第6条表）において「教職実践演習」が新設・必修化される

こととなった。

この「教職実践演習」には、教員に求められる4つの事項（①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解に関する事項、④教科等の指導力に関する事項）を含めることが適当とされている。また、実施に当たって、演習（指導案の作成や模擬授業・場面指導の実施等）や事例研究、グループ討議等を適切に組み合わせて実施すること、教職経験者を含めた複数の教員の協力方式により実施すること、最終年次の配当科目とすることなどを工夫することが適当であるとされている。

この「教職実践演習」は、平成22年度入学者から適用され、該当する学生が4年次になった際、開講される。しかしながら、この科目を実施するためには、学校現場の実態を考慮しつつ、学生の積極的な活動を中心とする指導を行うとともに、その学習の記録等を蓄積・分析し、各学生に応じ、不足する知識や技能を補うことが求められることから、実質的には、1年次（すなわち、今年度）からの記録が必要となる。

教職大学院を擁する比較的大規模な私立大学や国立大学法人の教員養成系大学・学部等の場合、組織体制等も整備され、十分な指導が実現可能であろう。しかし、全国に数多くある小規模な私立

2010年11月30日受付

* 江戸川大学 教職課程センター

** 江戸川大学 学術情報部

大学や非教員養成系大学・学部の教職課程等では、少人数のスタッフ等による努力と限られた予算の範囲内での試行錯誤に頼らざるを得ない実態があると考えられる。

そこで、我々は、(人的にも、物的にも)小規模な資源でも実施可能な「教授・学習ポートフォリオ」の構築とその活用を焦点化し、

1) 蓄積すべき「指導記録」や「学習記録」の特徴を明らかにすること(教職関連科目、基礎教養教育科目、及び、専門科目等の関連性を含む)

2) 効率的・効果的な「記録」の蓄積方法を明らかにすること(物的・人的資源を含む)

3) 指導記録や学習記録の管理、及び、その活用方法を明らかにすること

等を目指している。

本稿では、既存の施設設備の範囲で実現可能な電子的な「教授・学習ポートフォリオ」の構築を試みた事例を紹介する。

2. ポートフォリオの実現

2.1 学生規模と学内インフラの現状

本学は、2学部5学科(各学科1学年あたり、100名、全学生数2,000名程度)の小規模な私立大学である。

学生は、入学時に貸与される個人のノートPCを持ち、ほぼキャンパス全域でLDAP認証による学内LANへのアクセスが日常的に可能な状態である。

また、電子メールは、Googleが提供しているサービスを利用することで、全学生に個別のアカウントを提供している。

授業等において、電子的な資料の配布や回収等が実現できるmoodleをベースにした「エドクラテス」(図1)と呼称されるLMS(Learning Management System)は導入されているものの、教員等が活用できる全学的な学籍管理システムは未整備である。一応、Web、及び、携帯電話から、授業の出欠状況だけが確認できる仕組みは導入さ

れてはいるが、LMSとは連携されていない。



図1. moodle ベースの「エドクラテス」

2.2 教職課程の状況

本学では、中学校・社会、高校・公民、中学校・英語、高校・英語、中学校・国語、高校・国語、高校・情報の免許が取得できる。

本学の教職課程では、開設から4年の試行錯誤を経て、教育実習に向けた準備のための自主講座「教職セミナー(通年、週1回)」と「教職合宿(夏期5日間、春期3日間)」を実施している。

上記の活動に際し、昨年「エドクラテス」を利用した資料の共有(「フォーラム」機能を利用した授業案等の提供)及び、相互評価(「投票」機能を利用した評価と「フォーラム」機能を利用した助言、感想や振り返り等の提示)を行っている(図2)。

2.3 ポートフォリオの記載項目

ポートフォリオに記載する内容等については、昨年からの検討を始めているものの、各教科により、考え方や方法が様々であることから、試行錯誤を続けている。当初、授業等の理解度や学習状況にかかわる情報を積極的に取り入れるために、全国の大学において、FD活動の一環として取り入れられている大福帳やミニツッペーパー等、学生による授業評価を活かす仕組みから、必要と考えられる項目を抽出する方法等も検討した。しかし、大学の特徴や学生の気質に大きく左右されることが予想されることから、項目そのものを検討する

- 19 【2009年度】
- 📄 授業評価による振り返り（やりっぱなしは好ましくない！）
- 第12回 模擬授業（2010年1月19日）
- 📄 指導案・資料のアップロード
1. ■■■君の模擬授業
 - ? 授業についての総合評価
 - 📄 自由記述評価
 2. ■■■君の模擬授業
 - ? 授業についての総合評価
 - 📄 自由記述評価
- 第11回 模擬授業（2010年1月12日）
- 📄 指導案・資料のアップロード
1. ■■■君の模擬授業
 - ? 授業の総合評価
 - 📄 自由記述評価
 2. ■■■君の模擬授業
 - ? 自由記述評価
 - 📄 自由記述評価
- 第10回 模擬授業（2009年12月22日）
- 📄 授業案のアップロード
1. ■■■君の模擬授業
 - ? 授業の総合評価
 - 📄 自由記述評価
 2. ■■■の模擬授業
 - ? 授業の総合評価
 - 📄 自由記述評価

図2. 教職における「エドクラテス」の利用

ことよりも、文部科学省による視察への対応という側面もあり、まず実施することが優先された。そのため、今回は、試行錯誤という意味もあり、教授・学習ポートフォリオ構築に際し、その項目としては、文科省案をベースにした。

2. 4 ポートフォリオの実装

一般に、資料を共有する簡便な方法として、Google ドキュメント等のサービスの活用が考えられる。しかし、学外にサーバが置かれており、ファイルの損失等も保証されないため、個人情報等を扱う可能性が高い「教授・学習ポートフォリオ」を構築する仕掛けとしては、不適切であると判断された。

そこで、既存の情報環境程度の安全が確保され、かつ、複数の教員と（ひとりの）学生との間で、情報を共有できる仕組みとして、今回、既存のmoodleを活用して、教授・学習ポートフォリオを実現する方法を考案した。

通常、moodleは、それぞれの授業等に相当するコースを中心にファイル等を管理する。そこで、その機能を活かし、学生ひとりひとりにかかわる

情報をひとつのコースと見なし、人数分のコースを作成することで、情報の共有を実現した(図3)。

先述した「教職セミナー」における活動と同様、自己評価等については、「投票」機能を利用し、活動記録の蓄積・共有については、「フォーラム」機能を利用している。

実際には、学生ひとり分に相当する項目を記述した（テンプレート用の）コースを作成するとともに、各学生に対応する空のコースを準備する。そして、各学生のコースにテンプレートのコースをインポートすることで、今回の仕組みを実現することができる。

ただし、テンプレートをインポートすることで、人数分のコースを作成しているため、項目の修正等を簡単に行うことはできない。その意味では、専用のポートフォリオシステムの導入が望まれる。

現状、展示会等における（ポートフォリオ構築システムの）説明では、ポートフォリオとして、どのような内容を記録するか相談に応ずることを特徴としていることが多い。蓄積された情報の分析等をいかに行い、その結果を踏まえ、いかに指導・学習するか等は（ソフトウェア側の問題ではなく）利用者側の運用の問題となる。実際、(社)私立大学情報教育協会による報告等でも、情報を蓄積する「箱もの」よりも、その情報を活用し、学生指導に活かす仕組みが重要であることをうかがい知ることができる。

その意味からは、ポートフォリオに求められる最低限の機能としては、複数の教員と（ひとりの）学生が情報を蓄積でき、それらを共有することができれば、まずは良いと考えられる。

3. 今後に向けて

教授・学習ポートフォリオの構築に必要な最低限の機能は既存設備の活用により実現することができた。今後、それらの情報を有効に活用する（具体的な）方法に焦点をあてる必要がある。

謝辞

moodleの追加的導入にご尽力いただいた高田正之教授、並びに、ポートフォリオの構築や運用に協力をいただいた教職課程センターにかかわる教職員の方々に感謝します。また、本研究は、平成22年度の学内共同研究「学生の

特質を考慮した授業改善のためのフィードバック情報の探求」による支援を受けて実施されています。ここに記し、感謝します。

参考資料

- ・ Moodle による e ラーニングシステムの構築と運用, William H. Rice IV (著), 喜多 敏博 (監訳), 福原 明

- 浩 (翻訳), 技術評論社.
- ・ 諮問「今後の教員養成・免許制度の在り方について」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/04102201.htm
(2010年12月4日アクセス)
- ・ 答申「新しい時代の義務教育を創造します」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05102601.htm
(2010年12月4日アクセス)



図3. ポートフォリオの例 (到達目標や履修状況, 自己評価, ボランティア活動や教育実習の記録)